

# 使用・保管上のご注意

クボタケミックス接着剤・接合剤・滑剤のご使用にあたっては、下記の注意事項をお読みいただき、必ずお守りください。

## ●表示内容の無視は大変危険です。

表示内容が無視または誤った使用により生じる危害や損害の程度を次の絵表示で区分し、説明しています。



### 警告

この表示の欄は「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



### 注意

この表示の内容は「障害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

## ●お守りください。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



気をつけていただきたい「注意喚起」の内容です。



行ってはいけない「禁止」の内容です。



## ビニル系接着剤の保管・取扱い上のご注意

危険物第4類該当接着剤 タフダイン赤、青、黄、HI、HI(白)、HT、カラータフダインブルー、カラータフダインブルー150N SB  
危険物第2類該当接合剤 SVR接合剤



### 警告

危険物第4類該当接着剤は引火性液体です。

危険物第2類該当接合剤は引火性固体です。

有機溶剤中毒の恐れがあります。

### 注意事項(労働安全衛生法による表示)

各種塩ビ管用接着剤およびSVR接合剤は、皮膚に付着したり、蒸気を吸入すると中毒、その他の健康障害を起こす恐れがありますので、取扱いには下記の注意事項を必ず守ってください。



### 注意



火気のある場所や静電気が発生する場所では、使用や保管をしないでください。



取扱い作業場所には、局所排気装置を設けてください。



取扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、または送気マスク、保護手袋、保護メガネなどを着用してください。



容器からこぼれた場合は、砂などを散布した後、処理してください。



取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行ってください。



皮膚に付着した場合は速やかに拭取り、石鹸と水で十分に洗い落としてください。



蒸気やガスなどを吸込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。



目に入った場合は多量の水で洗い流し、必要に応じて医師の診断を受けてください。



火災時には炭酸ガスや泡、または粉末消火器を用いて完全に消火してください。



温度が40℃以下の一定の場所(冷暗所)を定めて保管してください。また、使用後は容器のフタを正しくしっかりと閉めてください。



接着剤は消防法第2条の「危険物第4類第1石油類」に該当するため、200リットル以上保管する場合は危険物倉庫内に保管してください。ただしSVR接合剤は「危険物第2類引火性固体」に該当するため、1000キログラム以上保管する場合は危険物倉庫内に保管してください。(都市によっては指定数量未満でも火災予防条例等の規制を受けますのでご注意ください。)



タフダイン接着剤は、厚生労働省の有機溶剤中毒予防規則において、「第二種溶剤等」に該当します。囲まれた空間内(タンク内、ピット内、建屋内など)で接着作業を行う場合は、この有機溶剤中毒予防規則が適用され、「有機溶剤取り扱い作業主任」の資格が必要となることがあります。詳細につきましては、所轄の労働安全基準監督署にご確認ください。



## ビニル系接着剤およびSVR接合剤、KP接合剤の使用上のご注意

### ソルベントクラッキングに対するご注意



ビニル系接着剤は溶剤ですので、ノリのようにたっぷりと塗った方が良いという考えは誤りであり、有害な亀裂事故(ソルベントクラッキング)の原因にもなります。このため接着剤は薄く均一に塗り、接合部からはみ出したものはウエスなどで拭取ってください。



**配管後はできるだけ早い時期に通風を行うか、パイプ両端を開放したままにしておいてください。**

### 取扱い上のご注意



他の接着剤と混ぜて使用しないでください。



接着剤が古くなってゼラチン状になったものは、アセトンなどの溶剤を加えても接着力は回復しませんので使用しないでください。

### TS接合時のご注意



接合する前には必ず管端面の面取りを行ってください(糸面取り1～10mm程度)。



接着剤や接合剤には、水や砂、ホコリなどが入ったり付いたりしないようにしてください。接着(接合)面が汚れていると漏水や抜け事故につながりますのでご注意ください。



接着剤は受口、差口の両方に必ず塗ってください。



接着剤は薄く均一に受口、差口の順に塗り、塗布後は素早く差し込み、抜け出なくなるまで押さえてください。



接着剤は乾燥してしまうと効果がありません。とくに夏期はパイプが熱く接着剤が乾燥しやすいため、接着剤をやや厚めに塗ったり、作業を素早くすることが必要です。接着剤を塗布する前に、あらかじめワイヤーや挿入機を準備してください。



挿入直後、受口のテーパによってパイプが戻ることがあります。呼び径50以下の小口径では差込んでから30秒以上、呼び径65以上のパイプでは挿入機を用いて接合し、夏場で1分、冬場で3分以上そのまま保持してください。



接合部からはみ出した接着剤は、ウエスなどで拭取ってください。



接合後はできるだけ早く通風するか、パイプ両端を開放したままにしてください。



缶に備付けの刷毛は呼び径13～150用です。それ以上の呼び径または塗布作業を速やかに行うためには、幅の広い刷毛を別途準備してください。

### SVR接合剤の使用上のご注意



SVR接合剤の接着強度はエポキシ系接合剤より若干低いいため、大きな曲げ荷重がかかる所や、湧水地盤では使用しないでください。



SVR接合剤は卵形管用支管や一段落ち支管(例: 200-150)には使用できません。

### SPIスピーボンド(変性シリコン系接合剤)の保管・取扱い上のご注意



直射日光が当たらない5～40℃の場所で、かつ湿気で硬化するため湿気厳禁で保管してください。



開封した接合剤は速やかに使い切ってください。



スパイラル推進管の接合以外には使用しないでください。

# 使用・保管上のご注意



## エポキシ系接合剤の保管・取扱い上のご注意

該当接着剤 KCケーシーボンドⅡ、タフタイトEPS

KCケーシーボンドⅡや、その他のエポキシ系接合剤（主剤および硬化剤）は、健康に有害な物質を含有しており、皮膚に付着したり、蒸気を吸入するとかぶれや中毒、その他の健康障害を起こす恐れがありますので、取扱いには下記の注意事項を必ず守ってください。



### 注意



火気のある場所では使用や保管をしないでください。



取扱い場所の換気は十分に行ってください。



取扱い中はできるだけ皮膚にふれないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、または送気マスク、保護手袋、保護メガネなどを着用してください。



取扱い後は手洗いおよびうがいを十分に行ってください。



皮膚に付着した場合は速やかに拭取り、石鹸と水で十分に洗落とし、痛みや外見に変化のある場合には、速やかに医師の診察を受けてください。

目に入った場合は多量の水で洗い流し、必要に応じて医師の診断を受けてください。



温度が40℃以下の一定の場所（冷暗所）を定めて、保管してください。また、使用後は容器のフタを正しくしっかりと閉めてください。



## エポキシ系接合剤の使用上のご注意



接合剤の主剤・硬化剤が固まって缶から取出しにくい場合は、缶を温水につけて20～30℃に温めてから取出してください。



接合箇所についたゴミ、油、水などはウエスでよく拭取ってからご使用ください。接合面が汚れていると、接合部の漏水やハガレ事故につながりますのでご注意ください。



主剤と硬化剤は等量を取り出し、色ムラがなくなるまで十分に練合わせてください。練り不足があると接合力が低下しますので、ご注意ください。



ゴムまたはビニル手袋に水をつけながら練り合せると、付着しにくく混ぜることができます。



練り合せた接合剤は、接合箇所表面からすり込むようにして盛付けてください。接合剤表面の仕上げは水を含ませたウエスなどで拭取るときれいに仕上がります。



練り合せるときは1ヶ所ずつとし、数ヶ所分を練り合せないでください。主剤と硬化剤を練り合せた時点から反応が始まります。



## 滑剤（Vソープ・Vスプレー）使用・取り扱い上のご注意



水や砂、ホコリなどが入ったり付いたりしないようにしてください。



受口内面および管端外面（標線まで）を十分に清掃してからご使用ください。



受口のゴム輪には薄く均一に、またパイプ挿し口の表面には十分に塗布してください。



Vソープ・Vスプレーを塗布した面に土砂等が付着しないように注意してください。



接合部の隙間に細幅の薄板（チェックゲージ等）を挿入しながら全周にまわし、ゴム輪のねじれやその他の異常がないかを接合部ごとに確認してください。



メカニカル（押輪タイプ）の接合には使用しないでください。



切削油やグリス類をVソープ・Vスプレーの代わりに使用しないでください。ゴム輪に亀裂が生じたり、衛生上好ましくありません。



Vソープを水などで薄めて使用しないでください。ゴム輪接合時の挿入抵抗が上がり、施工が困難になります。



## SPエスピーボンドの使用上のご注意



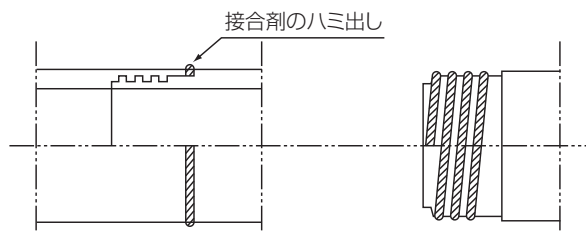
受口／差し口の油・砂・泥などの付着は漏水の原因となりますので接合面を水で清掃し、濡れた状態で接合剤を塗布してください。



接合剤は、下図に示す通り、差し口の溝部全体に塗布し、直ちに接合してください。



接合剤の外面側へのハミ出しを確認し、ハミ出しがない場合は塗布量が不足で漏水する場合がありますので、必ず規定量を塗布してください。



金属管用トルクレンチを用いると過大な締め付けとなりますので避けてください。